学移連九州地区 OB 会に出席して

10 月 9 日（日）母校で開催された学移連 OB 会西日本支部設立大会の興奮が冷めやらぬ中、九州在住の東京農業大学・熊本商科大学・鹿児島大学の有志が中心なって準備を進め 11 月 5 日（土）学移連九州地区 OB 会が熊本市の城見櫓で開催された。

当日は九州地方に存在する大学、九州地方以外の大学を卒業して九州地方に在住している学移連 OB や東京･関西地方から参加した学移連 OB 等､8 大学 45 名の参加者であった。



ブラジルから一時帰国した日下野良武氏（在サンパウロ、フリージャーナリスト、熊本商科大学卒、第六次南米学生実習調査団）の講演があった。氏の過去の経歴・ブラジルに対する思い・現在の活動や氏が若い時に大望を抱いてブラジルに渡り、ブラジルと日本の交流の懸け橋となって活動している現状から、彼は今般熊本学園大学（旧熊本商科大学）の招聘教授に就任して母校で学生にブラジル事情を講義する運びになり、さらには、母校以外の若い世代に海外にもっと目を向けるよう啓蒙をして行くようである。



懇親会では、高原要次氏（鹿児島大学）の九州地区 OB 会設立経過報告、学移連 OB 会会長伴内季雄氏（日本大学）の挨拶の後、数年振りに会った OB や初めて会った OB 等、学生時代の学移連活動の思い出や現在の生活（活動）状況、さらには将来の夢のなどを時間が経過するのを忘れて語り合い、会は非常な盛り上がりを見せた。







会が盛り上がったところで、参加大学や参加者の紹介が行われ、さすが九州と云う感じで、熊本商科大学・北九州大学・鹿児島大学の参加者が多く、それぞれの大学のクラブ歌を斉唱して会場を圧倒した感があり、東京農業大学は恒例の青山ほとりを披露して出席者からは拍手喝さいを浴びた。旧友との再会や新しい出会い等の興奮が冷めやらぬ中、最後は出席者全員で連盟歌“アジアの東”を斉唱して会は終了した。

学移連の良いところは、自分達が学んだ大学にプライドを持ちつつ、大学の垣根を越えて学生時代共に活動したと云う共通の意識を持ち、現在も深い絆で結ばれているところが魅力であると感じている。

先月母校で開催された学移連 OB 会西日本支部設立大会では、京都外大は理事長・総長、学長、顧問教授、校友会が出席して戴き大学ぐるみで大会を開催した。と云う印象を抱いており、校友会の活発な活動にも他大学の学移連 OB からは、感嘆の意を表しており京都外大を認識した学移連 OB は少なくない。

海外事情研究会 OB 会は、今後こうした活動を通じて他の大学との連携を深め、若い世代に活動を引き継いで行く所存である。



学移連九州地区 OB 会の参加校は次の通りである。

＊熊本商科大学 14 名、北九州大学 10 名、鹿児島大学 10 名、玉川大学 1 名、東京農業大学 5 名、拓殖大学 1 名、日本大学 3 名、京都外大 1 名。

完

引地正之（昭 41 年度英米卒、海外事情研究会）